

年 報 第 44 号

(平成29年)

一般財団法人 みどり健康管理センター

ご あ い さ つ

一般財団法人「みどり健康管理センター」は、1972年に開設された西日本で最も歴史のある健診専門機関です。当センターの人間ドックは、受診当日3時間以内でコンサルト医が結果説明をしていますが、このような施設は大阪府下には2施設しかありません。X線・超音波など検査項目が増えたにもかかわらず、時間内に終了できるのは、デジタル化と看護部・放射線・検査部・事務部など各部署による工夫が大きいと思っています。

健診で最も重要なことは、癌を早く見つけ、早期に治療することです。2016年4月から2017年3月までの当センターによるがん発見数は51例で、乳がん10例・肺がん8例・大腸がん8例・腎臓がん5例・胃がん5例・前立腺がん4例・・・となっています。

乳がんが年々増えていますが、これは食生活の欧米化・日本人女性の晩婚化などが原因と考えられています。乳がんの特徴は若い人に多いことで、今年度10例のうち40歳代が4例、50歳代が4例、60歳以上が2例でした。40歳代女性7万6000人を対象とした2016年の国立がんセンターの全国調査で、乳がん発見率はマンモグラフィ単独の77.0%に対しマンモグラフィ+乳腺エコーでは91.1%と高いことが明らかになっています。40歳代のいわゆる高濃度乳房の女性は、マンモグラフィに加え、乳腺エコーも行うのが理想的です。

今年、若い著名人が乳がんで亡くなられ、民間療法中心の治療を1年6か月も受けていたと話題となりました。怪しげな民間療法は以前からも存在していましたが、最近はかなり悪質なものも増え、ようやく厚労省やメディアも取り上げるようになりました。迷ったときは信頼できる医師に、セカンドオピニオンを聞いて下さい。

2番目に多かったのは肺がんで、早期発見のため本年度からオプション検査の「肺がんセット」を作りました。肺がんセットは、胸部CTスキャンに、肺がんの腫瘍マーカーであるCYFRA（シフラ）・ProGRP・CEAを加えたものです。ヘビースモーカーなど、肺がんハイリスク受診者にお勧めです。

胃がんは5例と激減しました。ピロリ菌検査によるピロリ菌陽性者の発見と、除菌による効果がでてきたものと考えられます。

2015年度の日本の医療費は42.3兆円と、①高額な新薬の登場、②医療の高度化、③高齢化によって急激に増え、前年度に比べ3.6%増加しています。日本のGDPに対する医療費は11.2%とOECD諸国平均の8.1%に比べ高く、35カ国中3位になっています。医療経済の面でも、健診による癌の早期発見・早期治療は重要です。

2016年の日本人の平均寿命は男性80.98歳・女性87.14歳、健康寿命は男性72.14歳・女性74.79歳と延び続けていますが、介護の必要な不健康な期間も男性8.84年・女性12.35年と延びています。

自立できない不健康な期間は、心筋梗塞や脳梗塞などの動脈硬化症、骨粗鬆症による転倒・骨折、認知症などによって起こります。健康寿命を延伸させるためには、メタボリックシンドロームにならないよう予防することが大切です。人間ドックで、異常を指摘された方は、食生活・運動・喫煙など生活習慣を改善や治療が必要です。

受診者に寄り添い、毎年新しいものを取り入れていく「みどり健康管理センター」を、今後ともよろしくお願いします。

平成29年10月

一般財団法人 みどり健康管理センター
所 長 徳 永 勝 人

2. 受診状況

(1) 受診者の動向

- 本年度の人間ドック受診者総数は10,312人であり、前年度に比べ296人の減少。1日当りで見ると43.1人、前年度比1.7人の減少となった。
- 生活習慣病予防健診（定期健診を含む）の受診者総数は6,571人であり、前年度に比べ221人の増加となった。
- 受診者総数16,883人の男女別では、男性9,855人（前年度比170人減）、女性7,028人（前年度比95人増）で、男女比率は従来どおりほぼ6：4の割合となっている。
また、年齢別構成は40才代が最も多く、次いで50才代の順となっている。（図2.1、表2.1参照）
- 当センターの特色である配偶者との同時受診者数は2,784人（1,392組）と全体（人間ドック・生活習慣病予防健診合算16,958人）の16.4%となっている。

(2) 地域別受診者数

地域別にみた受診者数は、従来と同様大阪府下が64.2%と過半数を占め、次いで兵庫県、奈良県の順となっている。（表2.2参照）

図 2.1 性・年齢別受診者分布 (平成28年4月～平成29年3月)

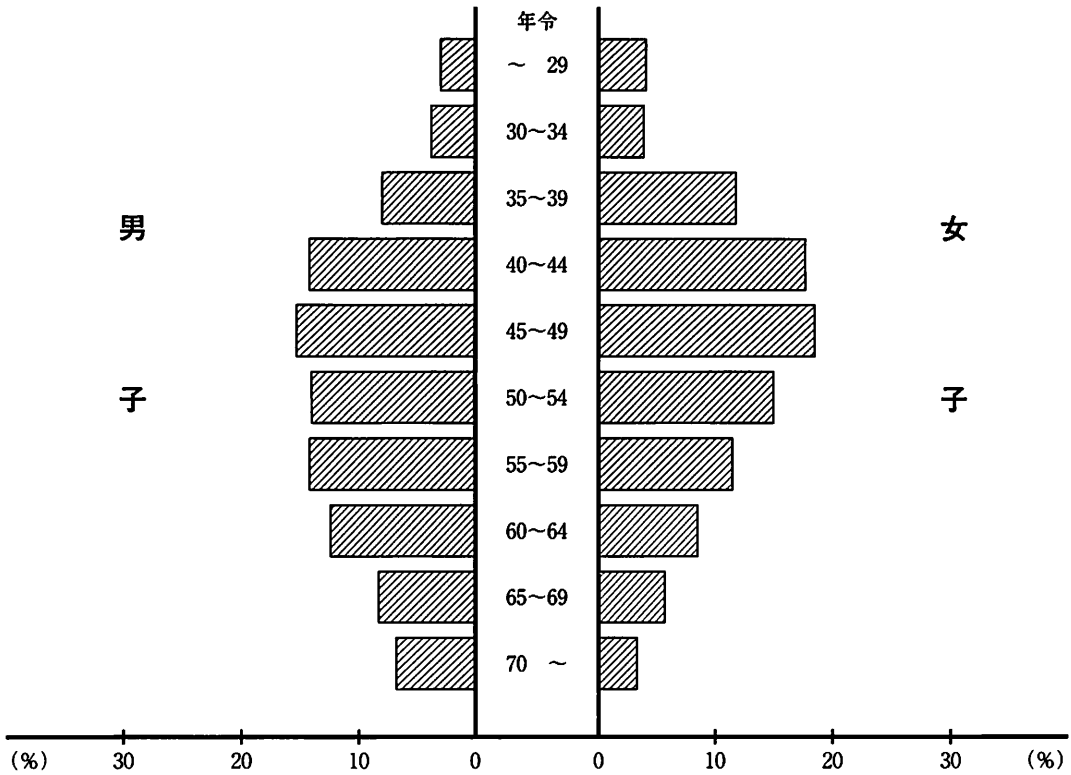


表 2.1 性・年齢別受診者数 (平成28年4月～平成29年3月)

性 年 令	男		女		合 計	
	受診者数 (人)	%	受診者数 (人)	%	受診者数 (人)	%
～ 29	295	3.0	288	4.1	583	3.5
30 ～ 34	371	3.8	274	3.9	645	3.8
35 ～ 39	795	8.0	833	11.8	1,628	9.7
40 ～ 44	1,397	14.2	1,243	17.7	2,640	15.6
45 ～ 49	1,505	15.3	1,298	18.5	2,803	16.6
50 ～ 54	1,381	14.0	1,051	15.0	2,432	14.4
55 ～ 59	1,399	14.2	809	11.5	2,208	13.1
60 ～ 64	1,225	12.4	598	8.5	1,823	10.8
65 ～ 69	819	8.3	402	5.7	1,221	7.2
70 ～	668	6.8	232	3.3	900	5.3
合 計	9,855	100.0	7,028	100.0	16,883	100.0

表 2.2 地域別受診者数 (平成28年4月～平成29年3月)

地域 受診者数・率	大阪市内	大阪府下	兵庫県	奈良県	京都府	和歌山県	その他	合計
人数	1,974	8,862	1,929	543	378	48	3,149	16,883
比率(%)	11.7	52.5	11.4	3.2	2.2	0.3	18.7	100.0

3. 反復受診者についての検討（人間ドック受診者データ）

(1) 年度別にみた反復受診者数

当センターを2回以上反復して受診した人を表3.1に表わした。
本年度は90.5%で前年度比0.3%の増加となった。

(2) 受診回数別受診者数

平成28年度の反復受診率は男子「91.3%」、女子「89.4%」で男子が1.9%高くなっている。
受診回数別にみると、男女ともその比率はほぼ同じ傾向を示している。（図3.1、表3.2参照）

図 3.1 受診回数別分類（平成28年4月～平成29年3月）

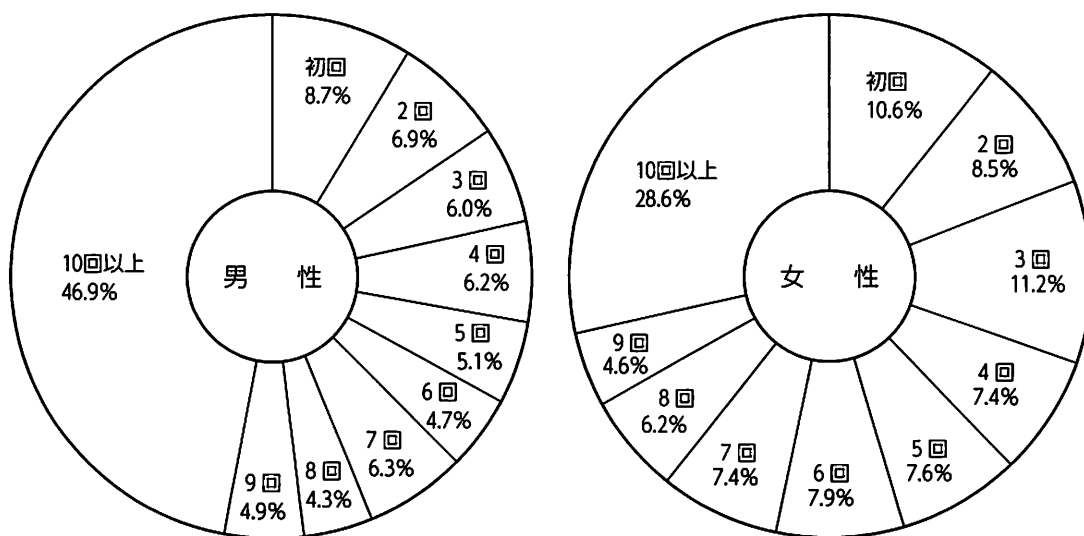


表 3.1 年度別受診者及び反復受診者数推移

年 度	人 間 ド ッ ク 受 診 者 数 (人)	反 復 受 診 者 数 (人)	反 復 受 診 率 (%)	(生活習慣病予防健診) 受 診 者 数 (人)
平成 8	19,572	17,164	87.7	
9	18,674	16,322	87.4	
10	17,777	15,840	89.1	90
11	16,584	14,836	89.5	441
12	15,225	13,559	89.1	846
13	14,860	13,002	87.5	2,173
14	14,060	11,949	85.0	2,583
15	13,451	11,479	85.3	3,097
16	13,045	10,995	84.3	3,882
17	13,014	10,877	83.6	4,423
18	13,035	11,027	84.6	5,595
19	13,263	11,032	83.2	5,916
20	13,302	11,272	84.7	6,288
21	12,868	11,057	85.9	6,178
22	12,286	10,505	85.5	6,808
23	12,123	10,683	88.1	6,657
24	11,664	10,255	87.9	6,211
25	11,198	9,920	88.6	6,437
26	10,751	9,577	89.1	6,372
27	10,608	9,565	90.2	6,350
28	10,312	9,334	90.5	6,571

表 3.2 受診回数別受診者数 (平成28年4月～平成29年3月)・(人間ドック受診者データ)

回 数	性 男		性 女		合 計	
	人 数	比 率 (%)	人 数	比 率 (%)	人 数	比 率 (%)
初回	534	8.7	444	10.6	978	9.5
2	423	6.9	358	8.5	781	7.6
3	366	6.0	472	11.2	838	8.1
4	381	6.2	308	7.4	689	6.7
5	311	5.1	317	7.6	628	6.1
6	284	4.7	331	7.9	615	5.9
7	386	6.3	310	7.4	696	6.7
8	264	4.3	259	6.2	523	5.1
9	300	4.9	194	4.6	494	4.8
10以上	2,874	46.9	1,196	28.6	4,070	39.5
合 計	6,123	100.0	4,189	100.0	10,312	100.0

4. 診断結果

平成28年度に受診した人間ドック10,312人の診断結果を(1)性・年齢、(2)癌、(3)主要疾患別に集計した。

(1) 性・年齢別総合診断結果

性別にみた受診者の内訳は男子6,123人(59.4%)、女子4,189人(40.6%)である。

異常なしと判定された男子1.6%、女子3.7%は昨年度に比較して男子は0.1%の減少、女子は0.6%の減少となった。

年齢別にみると、異常なしは加齢にしたがって減少している反面、要精検、要治療の割合が増加している。(図4.1、表4.1参照)

(2) 臓器別発見癌(本データは人間ドック、生活習慣病予防健診合算データ使用)

平成28年度に当センターで発見した癌の総数は51人である。(前年度比6人減)

臓器別にみると、乳癌10人(前年度比8人増)、肺癌8人(前年度比5人増)、大腸癌8人(前年度比7人減)、腎臓癌5人(前年度比2人増)、胃癌5人(前年度比8人減)、前立腺癌4人(前年度比5人減)、その他11人(前年度比1人減)となっており、受診者総数に占める率は0.30%と前年度比0.05%減少している。(表4.2参照)

(3) 主要疾患別診断結果

当センターの疾患コードにより、主な疾患について年齢別に集計した。(1)の性・年齢別総合診断結果の項でも述べたように各疾患とも加齢とともに異常の比率が高くなっている。(表4.3、表4.4参照)

図 4.1 総合診断結果分類(平成28年4月～平成29年3月)

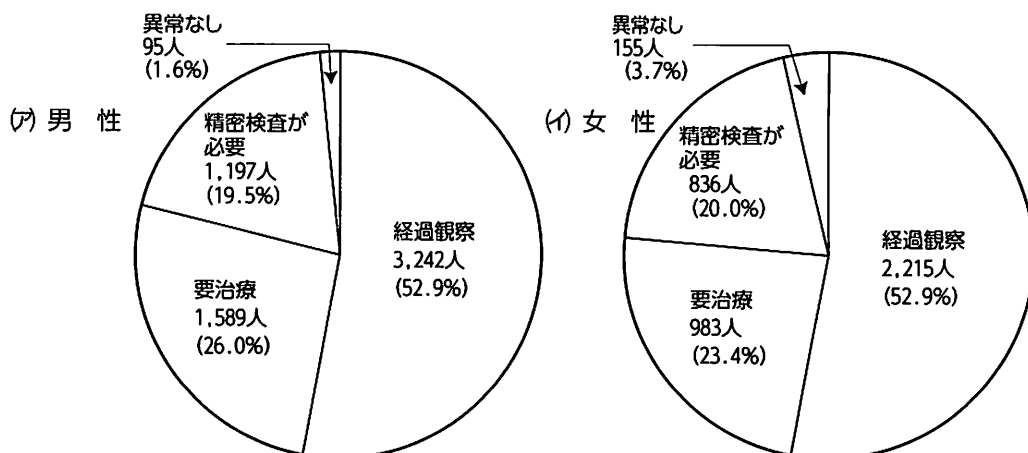


表 4.1 男女別・年齢別総合診断結果分類 (平成28年4月~平成29年3月)・(人間ドック受診者データ)

年齢別	診断結果 男女別	異常なし (軽度を含む)		経過観察		精密検査が必要		治療を要す (治療中を含む)		合計	
		人数	比率(%)	人数	比率(%)	人数	比率(%)	人数	比率(%)	人数	比率(%)
29才 以下	男	2	11.1	13	72.2	1	5.6	2	11.1	18	100.0
	女	5	50.0	2	20.0	1	10.0	2	20.0	10	100.0
	計	7	25.0	15	53.6	2	7.1	4	14.3	28	100.0
30才)	男	23	5.7	232	57.6	36	8.9	112	27.8	403	100.0
	女	51	9.9	285	55.3	93	18.1	86	16.7	515	100.0
	計	74	8.0	517	56.3	129	14.1	198	21.6	918	100.0
40才)	男	51	3.1	888	53.6	227	13.7	490	29.6	1,656	100.0
	女	75	4.9	806	52.7	292	19.1	356	23.3	1,529	100.0
	計	126	3.9	1,694	53.2	519	16.3	846	26.6	3,185	100.0
50才)	男	16	0.8	1,013	53.1	354	18.6	525	27.5	1,908	100.0
	女	20	1.7	624	51.8	224	18.6	336	27.9	1,204	100.0
	計	36	1.1	1,637	52.6	578	18.6	861	27.7	3,112	100.0
60才)	男	2	0.1	801	51.8	385	24.9	359	23.2	1,547	100.0
	女	4	0.6	397	54.9	154	21.3	168	23.2	723	100.0
	計	6	0.3	1,198	52.8	539	23.7	527	23.2	2,270	100.0
70才 以上	男	1	0.2	295	49.9	194	32.8	101	17.1	591	100.0
	女	0	0.0	101	48.6	72	34.6	35	16.8	208	100.0
	計	1	0.1	396	49.6	266	33.3	136	17.0	799	100.0
合計	男	95	1.6	3,242	52.9	1,197	19.5	1,589	26.0	6,123	100.0
	女	155	3.7	2,215	52.9	836	20.0	983	23.4	4,189	100.0
	計	250	2.4	5,457	52.9	2,033	19.7	2,572	25.0	10,312	100.0

図 4.2 年齢別にみた悪性腫瘍の発見頻度

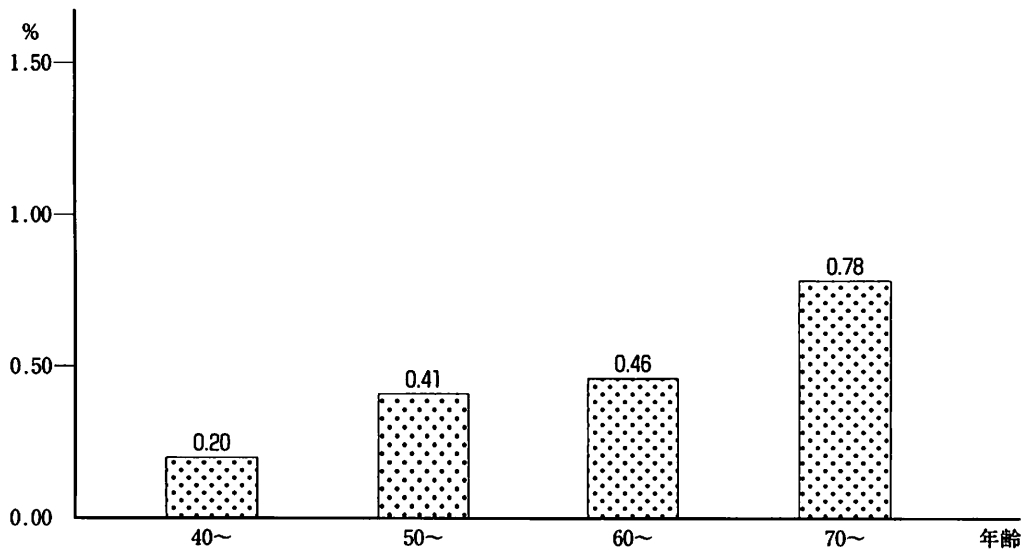


表 4.2 人間ドック、生活習慣病予防健診における臓器・年齢別悪性腫瘍数 (平成28年4月～平成29年3月)

部位	年齢							合計
	～ 29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～		
食 道					1 1		1 1	
胃				1	3	1	5	
大 腸			2 1	2 1	1 1		5 3	
肺				2 1	2 2	1	5 3	
肝 臓						1	1	
腎 臓			2	1 1	1		2 3	
前 立 腺				2 1		1	3 1	
乳 房			3 1	4	1	1	9 1	
子 宮			1				1	
そ の 他			1	1 2	1	1 1	4 3	
合 計	0 (0.0%)	0 (0.0%)	11 (0.20%)	19 (0.41%)	14 (0.46%)	7 (0.78%)	51 (0.30%)	
人間ドック 受診者数	28	918	3,185	3,112	2,270	799	10,312	
生活習慣病予防健診 受診者数	555	1,355	2,258	1,528	774	101	6,571	
合計人数	583	2,273	5,443	4,640	3,044	900	16,883	

(注) 上段：人間ドック、下段：生活習慣病予防健診

表 4.3 年齢・項目別診断結果（平成28年4月～平成29年3月）・（人間ドック受診者データ）

年 齢	29 才 以 下				30 ～ 39 才				40 ～ 49 才			
	軽度異常		異 常		軽度異常		異 常		軽度異常		異 常	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
身 体 計 測	8	28.6	0	0.0	350	38.1	0	0.0	1,342	42.1	0	0.0
視 力	0	0.0	0	0.0	4	0.4	0	0.0	30	0.9	0	0.0
眼 圧	0	0.0	0	0.0	0	0.0	8	0.9	0	0.0	56	1.8
聴 力	0	0.0	0	0.0	7	0.8	0	0.0	63	2.0	0	0.0
肺 機 能	3	10.7	0	0.0	89	9.7	8	0.9	391	12.3	44	1.4
血 圧	0	0.0	0	0.0	15	1.6	8	0.9	199	6.2	239	7.5
心 電 図	0	0.0	0	0.0	26	2.8	4	0.4	151	4.7	40	1.3
眼 底	1	3.6	0	0.0	28	3.1	18	2.0	155	4.9	78	2.4
胸 部 X 線	1	3.6	0	0.0	10	1.1	4	0.4	77	2.4	39	1.2
消 化 管 X 線	0	0.0	1	3.6	40	4.4	14	1.5	120	3.8	65	2.0
腹 部 超 音 波	10	35.7	0	0.0	391	42.6	8	0.9	1,831	57.5	31	1.0
血 液 一 般	4	14.3	0	0.0	42	4.6	55	6.0	197	6.2	247	7.8
脂 質	3	10.7	1	3.6	152	16.6	102	11.1	717	22.5	610	19.2
肝 機 能	2	7.1	1	3.6	185	20.2	27	2.9	828	26.0	86	2.7
ウ イ ル ス	0	0.0	0	0.0	1	0.1	0	0.0	28	0.9	2	0.1
脾 機 能	2	7.1	0	0.0	11	1.2	4	0.4	51	1.6	18	0.6
糖 代 謝	0	0.0	0	0.0	47	5.1	10	1.1	408	12.8	119	3.7
尿 酸 代 謝	3	10.7	1	3.6	81	8.8	56	6.1	289	9.1	266	8.4
骨 ・ 筋 肉	0	0.0	0	0.0	14	1.5	0	0.0	83	2.6	0	0.0
炎 症 反 応	2	7.1	0	0.0	36	3.9	0	0.0	150	4.7	0	0.0
腎 機 能	0	0.0	0	0.0	30	3.3	0	0.0	159	5.0	13	0.4
尿 一 般・ 沈 渣	3	10.7	1	3.6	212	23.1	34	3.7	780	24.5	127	4.0
便 潜 血	0	0.0	1	3.6	0	0.0	37	4.0	0	0.0	159	5.0
子 宮 が ん 検 査	0	0.0	0	0.0	0	0.0	28	3.1	1	0.0	123	3.9
乳 が ん 検 査	0	0.0	0	0.0	24	2.6	30	3.3	48	1.5	107	3.4
対 象 者 数	28				918				3,185			

※ 軽度異常：「軽度異常」、「経過観察」

異常：「要精査」、「要治療」、「治療中」

50 ~ 59 才				60 ~ 69 才				70 才 以 上				総 数			
軽度異常		異 常		軽度異常		異 常		軽度異常		異 常		軽度異常		異 常	
人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
1,528	49.1	0	0.0	1,137	50.1	0	0.0	356	44.6	0	0.0	4,721	45.8	0	0.0
45	1.4	0	0.0	52	2.3	0	0.0	17	2.1	0	0.0	148	1.4	0	0.0
0	0.0	107	3.4	0	0.0	121	5.3	0	0.0	62	7.8	0	0.0	354	3.4
168	5.4	0	0.0	365	16.1	0	0.0	262	32.8	0	0.0	865	8.4	0	0.0
544	17.5	46	1.5	499	22.0	36	1.6	230	28.8	41	5.1	1,756	17.0	175	1.7
321	10.3	675	21.7	254	11.2	769	33.9	86	10.8	364	45.6	875	8.5	2,055	19.9
274	8.8	81	2.6	300	13.2	117	5.2	122	15.3	105	13.1	873	8.5	347	3.4
294	9.4	108	3.5	379	16.7	97	4.3	213	26.7	43	5.4	1,070	10.4	344	3.3
135	4.3	69	2.2	126	5.6	90	4.0	98	12.3	46	5.8	447	4.3	248	2.4
175	5.6	109	3.5	191	8.4	132	5.8	94	11.8	57	7.1	620	6.0	378	3.7
2,237	71.9	48	1.5	1,806	79.6	40	1.8	666	83.4	22	2.8	6,941	67.3	149	1.4
225	7.2	150	4.8	212	9.3	79	3.5	125	15.6	48	6.0	805	7.8	579	5.6
767	24.6	1,030	33.1	537	23.7	918	40.4	160	20.0	344	43.1	2,336	22.7	3,005	29.1
781	25.1	119	3.8	582	25.6	64	2.8	262	32.8	24	3.0	2,640	25.6	321	3.1
22	0.7	7	0.2	32	1.4	3	0.1	14	1.8	1	0.1	97	0.9	13	0.1
66	2.1	23	0.7	61	2.7	16	0.7	68	8.5	9	1.1	259	2.5	70	0.7
769	24.7	268	8.6	679	29.9	367	16.2	279	34.9	144	18.0	2,182	21.2	908	8.8
324	10.4	355	11.4	229	10.1	301	13.3	74	9.3	133	16.6	1,000	9.7	1,112	10.8
99	3.2	0	0.0	57	2.5	1	0.0	23	2.9	0	0.0	276	2.7	1	0.0
222	7.1	1	0.0	160	7.0	0	0.0	65	8.1	0	0.0	635	6.2	1	0.0
221	7.1	11	0.4	227	10.0	17	0.7	138	17.3	13	1.6	775	7.5	54	0.5
715	23.0	95	3.1	581	25.6	54	2.4	226	28.3	34	4.3	2,517	24.4	345	3.3
0	0.0	140	4.5	0	0.0	138	6.1	0	0.0	57	7.1	0	0.0	532	5.2
0	0.0	58	1.9	0	0.0	15	0.7	0	0.0	0	0.0	1	0.0	224	2.2
17	0.5	57	1.8	3	0.1	16	0.7	2	0.3	3	0.4	94	0.9	213	2.1
3,112				2,270				799				10,312			

表 4.4 主要疾患別診断結果(平成28年4月～平成29年3月)対象者数10,312人・(人間ドック受診者データ)

疾患名	軽度異常		異常		疾患名	軽度異常		異常	
	人数	%	人数	%		人数	%	人数	%
肥満	2,595	25.2	0	0.0	炎症反応陽性	260	2.0	0	0.0
やせ過ぎ	747	7.2	0	0.0	低カルシウム血症	7	0.1	0	0.0
視力低下	148	1.4	0	0.0	高カルシウム血症	86	0.8	0	0.0
高眼圧	0	0.0	354	3.4	低リン血症	131	1.3	0	0.0
聴力低下	865	8.4	0	0.0	高リン血症	54	0.5	0	0.0
高血圧	875	8.5	2,055	19.9	貧血	382	3.7	310	3.0
高LDL	1,760	17.1	1,445	14.0	多血症	2	0.0	140	1.4
低HDL	251	2.4	81	0.8	白血球減少症	225	2.2	20	0.2
高中性脂肪	1,243	12.1	162	1.6	白血球増多症	0	0.0	75	0.7
肝機能障害	1,478	14.3	205	2.0	血小板減少症	212	2.1	49	0.5
ALP高値	155	1.5	0	0.0	血小板増多症	0	0.0	12	0.1
LDH高値	374	3.6	6	0.1	尿糖陽性	134	1.3	26	0.3
低蛋白	154	1.5	2	0.0	尿路感染症	0	0.0	235	2.3
高蛋白	0	0.0	2	0.0	便潜血陽性	0	0.0	532	5.2
低アルブミン血症	273	2.6	10	0.1	心電図所見異常	873	8.5	51	0.5
ZTT高値	516	5.0	32	0.3	眼底所見異常	1,070	10.4	253	2.5
高ビリルビン	219	2.1	0	0.0	胸部X線所見異常	447	4.3	243	2.4
HBウイルス抗原陽性	79	0.8	12	0.1	消化管X線所見異常	620	6.0	271	2.6
糖尿病	0	0.0	678	6.6	胃内視鏡所見異常	1,011	9.8	18	0.2
境界型糖尿病	680	6.6	0	0.0	超音波異常・胆のう	2,157	20.9	16	0.2
糖尿病型	0	0.0	230	2.2	超音波異常・腎臓	2,957	28.7	26	0.3
食後高血糖	1,502	14.6	0	0.0	超音波異常・肝臓	4,640	45.0	21	0.2
高アミラーゼ血症	259	2.5	70	0.7	超音波異常・その他	1,299	12.6	89	0.9
高尿酸血症	1,000	9.7	540	5.2	乳房所見異常	94	0.9	213	2.1
リウマチ反応陽性	435	4.2	0	0.0	子宮頸部細胞診異常	1	0.0	53	0.5

5. 上部消化管（胃部）X線検査

平成28年度（平成28年4月1日～平成29年3月31日）の人間ドック及び生活習慣病予防健診受診者中、上部消化管X線検査受診者は12,529人（男性7,737人・女性4,792人）であった。

内、精密検査を必要とする受診者（以下、要精検者とする）は378人（男性274人・女性104人）であった。

〈A〉要精検者の精検受診状況及び精検結果の調査集計結果

本年度の要精検率・精検受診者状況及び最近10年間の要精検率・精検受診率の推移、精密検査結果等の図表を示す。

【表・A-1】要精検者数及び精検受診状況

要精検率は3.0%で昨年度3.6%より減少した。精検受診率は58.2%で昨年度64.1%と比べ減少した。

また、精検受診者中当センター精検部門受診者は7人（3.2%）であった。

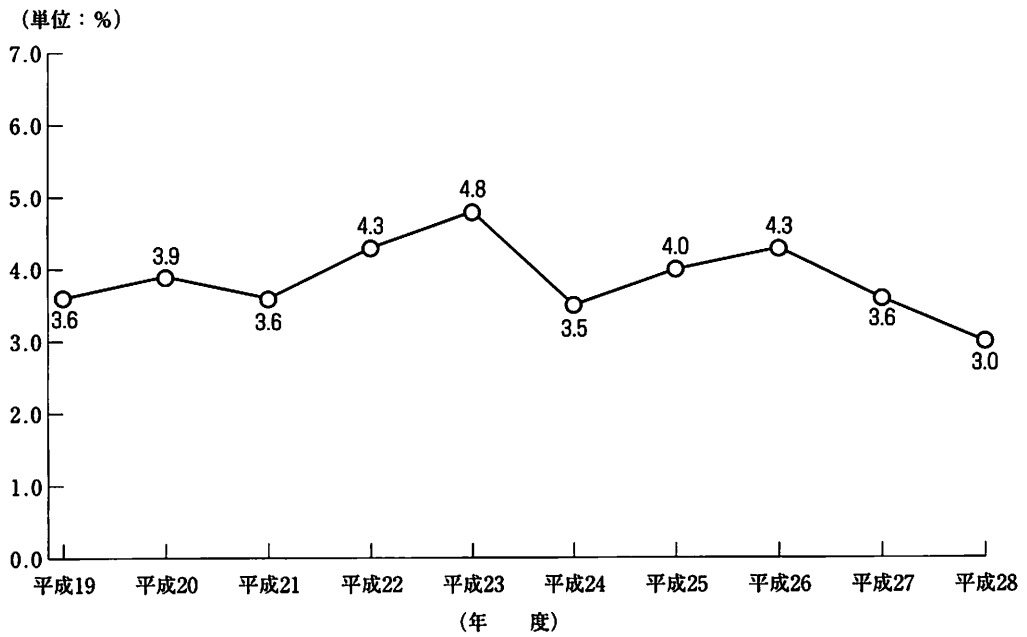
	受診者数	要精検者数	精検受診者数	未受診及び未確認者数
男性	7,737	274 (3.5%)	152 (55.5%)	122 (44.5%)
女性	4,792	104 (2.2%)	68 (65.4%)	36 (34.6%)
男女計	12,529	378 (3.0%)	220 (58.2%)	158 (41.8%)

※未確認者→精検を受診したか否か確認できなかった者

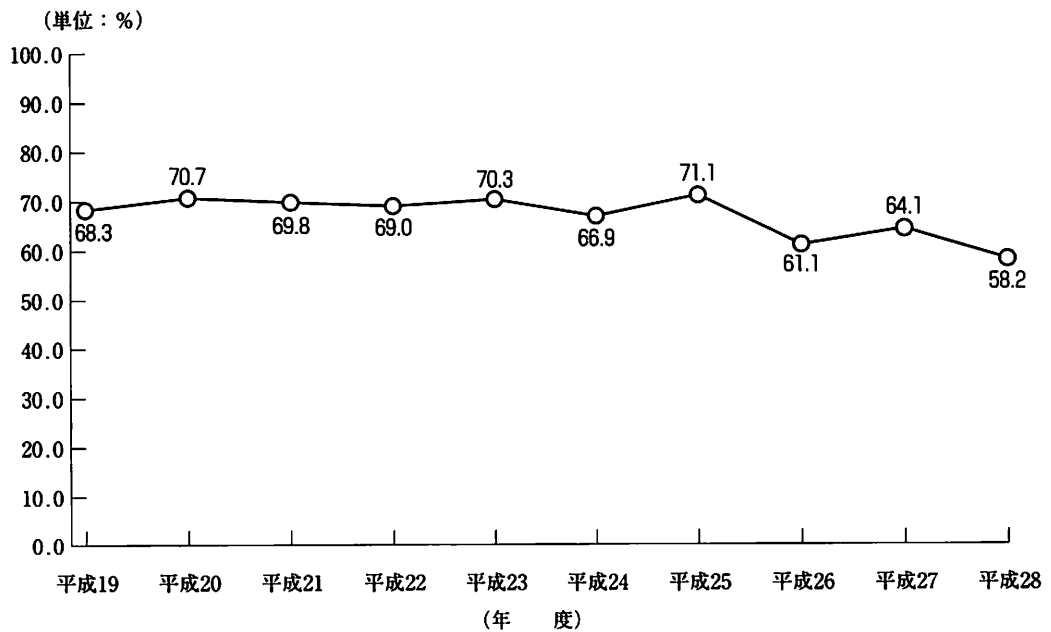
要精検者数の（ ）内は、上部消化管X線検査受診者に対する割合

精検受診者数・未受診及び未確認者数の（ ）内は、要精検者数に対する割合

【図・A-1】 最近10年間の要精検率の推移



【図・A-2】 最近10年間の精検受診率の推移



【表・A-2】 精密検査結果（精検受診者=220人）

疾 患 名	確 定 疾 患 数 ※		
	男 性	女 性	男 女 計
食 道 癌	1	0	1
胃 癌	4	0	4
十 二 指 腸 癌	0	0	0
胃 腺 腫	1	0	1
食 道 潰 瘍（癒痕含む）	1	0	1
胃・十二指腸潰瘍（癒痕含む）	4	2	6
胃 潰 瘍（癒痕含む）	24	6	30
食 道 ポ リ ー プ	1	1	2
胃 ポ リ ー プ	19	18	37
食 道 粘 膜 下 腫 瘍	2	0	2
胃 粘 膜 下 腫 瘍	12	1	13
十 二 指 腸 潰 瘍（癒痕含む）	8	3	11
十 二 指 腸 ポ リ ー プ	1	0	1
上 記 以 外 の 疾 患	61	28	89
異 常 な し	13	9	22
計	152	68	220

※1人1疾患とし上記疾患名の上から順位とした。

〈B〉 上部消化管悪性腫瘍患者の発見数及び発見率

平成28年度の上部消化管X線検査で発見された悪性腫瘍は以下の通りであった。

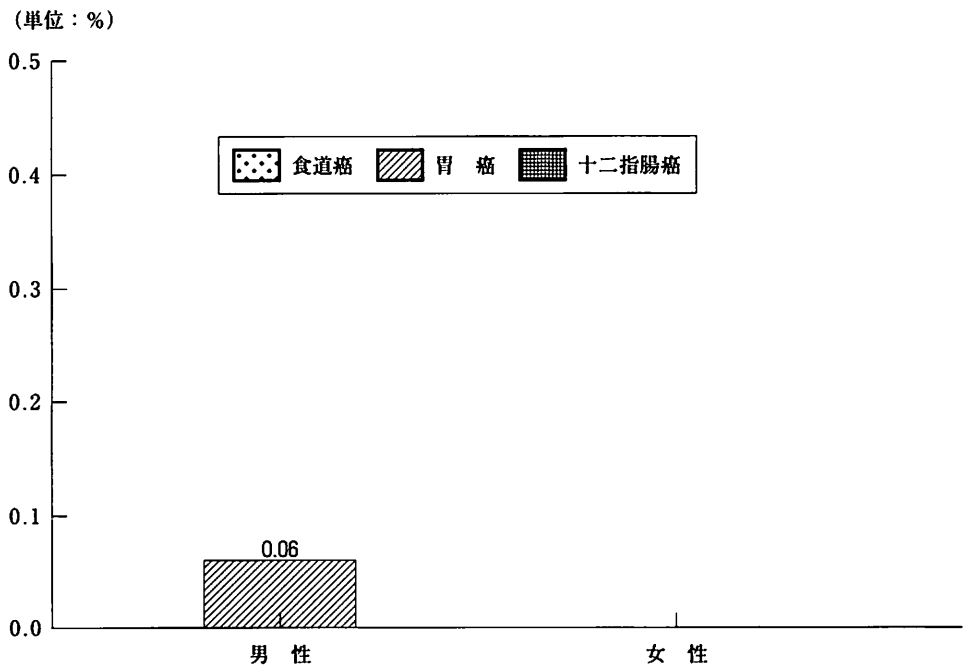
発見数 = 5 症例

発見率 = 0.04%

【表・B-1】 男女別上部消化管悪性腫瘍発見数及び発見率

	受診者数	食道癌	胃癌	十二指腸癌	悪性腫瘍計
男性	7,737 (61.8%)	1 (0.01%)	4 (0.05%)	0 (0.0%)	5 (0.06%)
女性	4,792 (38.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
男女計	12,529 (100%)	1 (0.01%)	4 (0.03%)	0 (0.0%)	5 (0.04%)

【図・B-1】 男女別上部消化管悪性腫瘍発見率

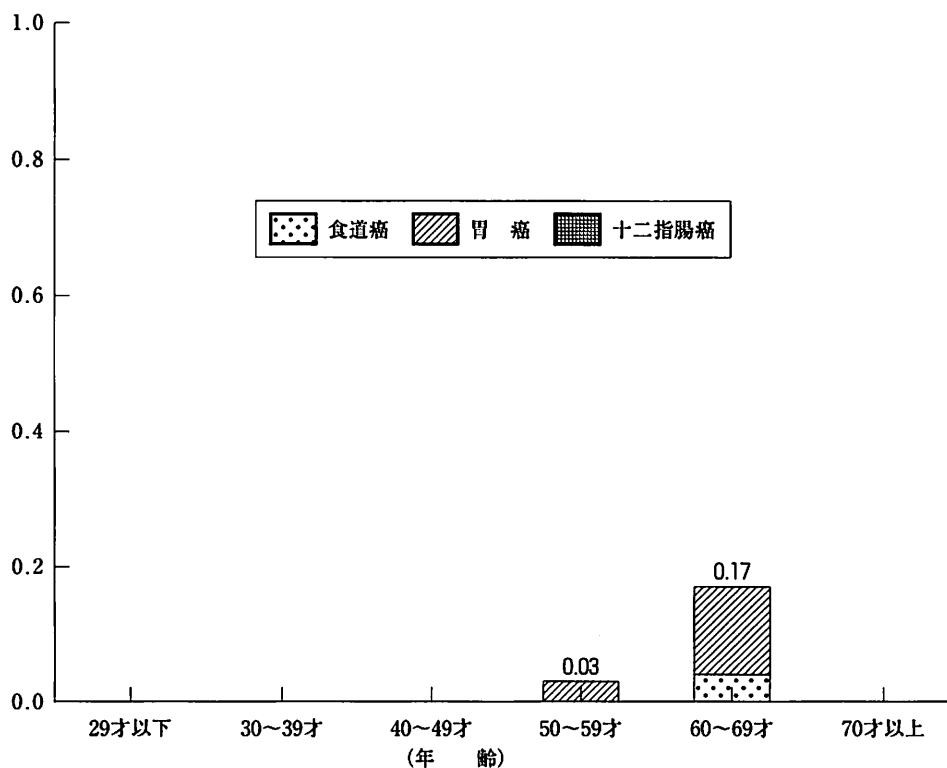


【表・B-2】 年齢別上部消化管悪性腫瘍発見数及び発見率

年 齢	受診者数	食道癌	胃 癌	十二指腸癌	悪性腫瘍計
29才以下	49 (0.4%)	0	0	0	0
30~39才	1,536 (12.3%)	0	0	0	0
40~49才	4,373 (34.9%)	0	0	0	0
50~59才	3,622 (28.9%)	0	1 (0.03%)	0	1 (0.03%)
60~69才	2,318 (18.5%)	1 (0.04%)	3 (0.13%)	0	4 (0.17%)
70才以上	631 (5.0%)	0	0	0	0
合 計	12,529 (100%)	1 (0.01%)	4 (0.03%)	0	5 (0.04%)

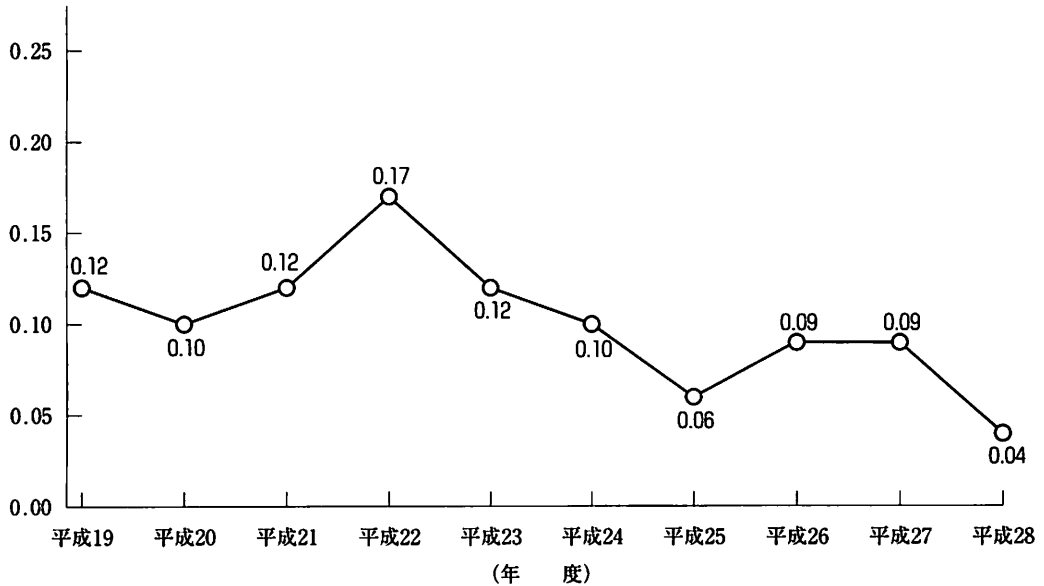
【図・B-2】 年齢別上部消化管悪性腫瘍発見率

(単位：%)



【図・B-3】 最近10年間の上部消化管悪性腫瘍発見率の推移

(単位：%)



〈C〉 発見胃癌の早期癌率

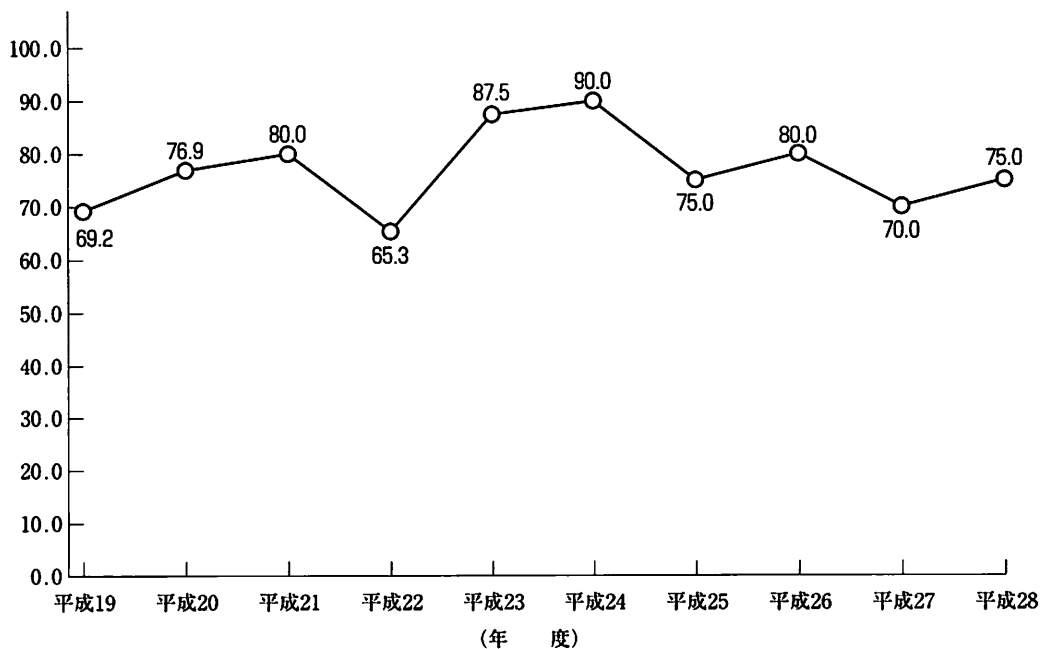
発見胃癌 4 症例中、早期胃癌は 3 症例であった。

(手術所見未確認の症例は内視鏡所見による)

∴早期癌率=75.0%

【図・C-1】 最近10年間の早期癌率の推移

(単位：%)



6. 胸部 CT 検査

平成28年度(平成28年4月1日～平成29年3月31日)のCT検査受診者は、昨年度より84人多い619人(男性434人・女性185人)であった。一次精検としての胸部CT検査(胸部X線検査に於ける要精検者・経過観察者及び他施設紹介者等)は昨年度より21人多い70人(男性33人・女性37人)、オプションとしての胸部CT検査は昨年度より63人多い549人(男性401人・女性148人)であった。

○一次精検としての胸部CT検査の結果を報告する。

疾患名	男性	女性	男女計
肺 癌	1	1	2
炎症性疾患	11	15	26
ブラ・ブレブ	5	0	5
胸膜肥厚・癒着	1	0	1
その他の疾患	7	3	10
異常なし	6	14	20
精検未確認者	2	4	6
合計	33	37	70

※要二次精検者中、精検受診者はその結果とし、精検結果未確認者は精検未確認者とした。

※1人1疾患とし上記疾患名の上から順位とした。

○オプションの胸部CT検査の結果を報告する。

疾患名	男性	女性	男女計
肺 癌	0	0	0
炎症性疾患	185	60	245
ブラ・ブレブ	40	1	41
胸膜肥厚・癒着	4	8	12
その他の疾患	67	26	93
異常なし	97	51	148
精検未確認者	8	2	10
合計	401	148	549

※要精検者中、精検受診者はその結果とし、精検結果未確認者は精検未確認者とした。

※1人1疾患とし上記疾患名の上から順位とした。

7. 乳房検査

○マンモグラフィ検査（視触診併用）

NPO法人日本乳がん検診精度管理中央機構が認定する、有資格者のマンモグラフィ読影医師および撮影技師と視触診医師が担当している。

平成28年度のマンモグラフィ検査の総受診者数は、前年度に比べ451人増加の2,898人であった。年齢別構成は40才代が45.2%と最も多く、50才代の28.6%、60才代の12.6%と続く。

検診方法

撮影は富士フィルム社製フラットパネル搭載マンモグラフィ装置AMULET（直接変換方式）、読影は5Mモニタによるソフトコピー診断を行っている。

視触診、マンモグラフィで異常を指摘した要精密検査者および要経過観察者（3カ月・6カ月）には、専門機関での検査・診断の参考画像として、全員にCDを送付している。希望施設にはハードコピー（写真）を送付している。

*ソフトコピー：デジタル画像をモニタに表示したもの。

*ハードコピー：デジタル画像をフィルムにプリントしたもの。

精密検査結果（精検受診者数：214人）

今年度の要精検率（視触診併用のため視触診での要精検も含む）は、受診者2,898人中271人の9.4%となり、昨年度の8.6%より上昇した。

*精検受診者：要精密検査者中、追跡調査にて精検受診が確認できた者としている。精検結果においても同様である。

異常なし：59人、良性疾患：146人、乳がん疑い：1人、乳がん：8人

疾患名	乳がん	乳がん疑い	乳腺症	のう胞	線維腺腫	その他	計
確定数	8	1	48	52	26	20	155

がん発見成績

平成28年度のがん発見数は8人であり、がん発見率は0.28%を示した。

年度	総受診者数	要精検受診者数	精検受診者数	乳がん数
平成24年度	2,041	132（6.5%）	96（72.7%）	4（0.20%）
平成25年度	2,122	120（5.7%）	88（73.3%）	7（0.33%）
平成26年度	2,208	141（6.4%）	111（78.7%）	11（0.50%）
平成27年度	2,447	211（8.6%）	157（74.4%）	0（0.00%）
平成28年度	2,898	271（9.4%）	214（79.0%）	8（0.28%）

8. 研究成果発表等

第45回 日本総合健診医学会（平成29年1月 於：東京）

「逆流性食道炎の予測因子」

大会長 特別賞 受賞

一般財団法人 みどり健康管理センター

○堀 義子 田中 和子 辻野 京子
高垣裕美子 康 真紀 中西 英子
南 慶子 井出 政和 松村有美子
松村 俊子 古林 孝保 徳永 勝人

〔目的〕

最近、逆流性食道炎の頻度が増加している。ピロリ菌感染率低下で逆流性食道炎が増加し、その20年後にバレット食道、さらに20年後に食道腺癌が増加するとの仮説がある。逆流性食道炎の背景を検討し、その予防のための予測因子を求めた。

〔対象〕

2015年4月1日より2016年3月31日までの当センター内視鏡受検者1062人（平均年齢55.3歳）、男性680人（同56.5歳）、女性382人（同53.1歳）

〔方法〕

1062人中、ロサンゼルス分類-GradeA以上の逆流性食道炎あり群220人となし群842人について、性、年代、肥満(BMI25以上)、油物多い、飲酒(1日2合以上)、ストレス、喫煙、萎縮性胃炎、食道裂孔ヘルニア等の背景因子について検討した。次に、逆流性食道炎の有無を目的変数とし、上記背景を説明変数として、ロジスティック回帰分析により逆流性食道炎の予測因子を求めた。統計学的解析には χ^2 乗検定、ロジスティック回帰分析はSTAT FLEXを使用した。

〔結果〕

逆流性食道炎の頻度は全体で20.7%、男性27.6%、女性8.4%であった。男性は60代未満が60代以上より高頻度であったが、女性では年代間の差はみられなかった。上記背景の内、食道炎あり群となし群の間で有意差を認めたものは、性、肥満、飲酒、喫煙、萎縮性胃炎、食道裂孔ヘルニアであった。ロジスティック回帰分析の結果、予測因子として有意であったのは、オッズ比順に、食道裂孔ヘルニア(3.4)、男性(3.3)、肥満(1.8)、60歳未満(1.7)の4因子であった。飲酒は有意ではないがリスク増加の傾向を認めた。萎縮性胃炎、喫煙、油物多い、ストレスは有意な因子ではなかった。

〔考察〕

逆流性食道炎の予防には、リスク因子である食道裂孔ヘルニア、性、肥満、年代を考慮した指導が重要である。

「片側および両側腎のう胞と腎機能障害との関係」

一般財団法人 みどり健康管理センター

○宮下 幸子	佐藤 千夏	長崎 幸美
堀内久美子	島津 英子	相川 聡美
熊田 桂子	為本 香苗	渡邊 秀子
辻野 京子	松村 俊子	田中 和子
古林 孝保	徳永 勝人	

【目的】

腎のう胞は自覚症状が乏しく健診時に腹部超音波検査で偶然発見されることが殆どであるが、腎のう胞と腎機能障害との関係は必ずしも明らかとなっていない。そこで当センターの健診結果から、片側および両側腎のう胞と腎機能障害との関係を検討した。

【対象・方法】

対象は平成26年度当センター総合健診受診者17123名のうち、腹部超音波検査を実施した12650名、平均年齢52.5才、男性7869名(53.5才)、女性4781名(50.9才)で、径1cm以上を腎のう胞とした。腎機能異常はクレアチニン男性 1.11mg/dl 以上、女性 0.81mg/dl 以上とした。解析は Mann-Whitney 検定を用いた。

【結果】

腎のう胞は15%(男性19%、女性8%)あり、そのうち片側は12%(男性15%、女性7%)、両側は3%(男性4%、女性1%)あった。また腎のう胞の頻度は、男女とも加齢とともに増加していた。腎のう胞における腎機能異常者の頻度は、腎のう胞なしではクレアチニン上昇者が6.2%であったが、片側腎のう胞者は9.4%と1.5倍、両側腎のう胞者では19.7%と3.2倍となっていた。加齢の影響を除くため各年代別に腎のう胞と腎機能障害との関係をみると、片側では有意差は認めなかったが、両側腎のう胞では有意にクレアチニン上昇者が多かった。

【結語】

腎機能障害者は、腎のう胞なし者に比べ、片側腎のう胞者は1.5倍、両側腎のう胞者は3.2倍と多くなっていた。年齢を考慮すると、腎のう胞なし者と片側のう胞者の間には腎機能異常者に有意差はなかったが、両側腎のう胞者では有意に腎機能異常者が多かった。